

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 雅博 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009664

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

かとう まさひろ

加藤 雅博（北海道区水産研究所 業務支援課）

2014 年の北太平洋

漁獲数

2015 年の NPAFC 科学調査統計小委員会 (CSRS) における各国の報告によると、2014 年 1-12 月の北太平洋の漁獲数は 3 億 9,202 万尾で、前年 5 億 8,602 万尾の 67% でした (図 1A)。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い 2 億 1,083 万尾で全体の 54% を占めています。次いでサケが 9,740 万尾 (構成比 25%, 前年比 92%), ベニザケが 6,890 万尾 (構成比 18%, 前年比 139%) と続き、これら 3 魚種で全体の約 96% を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ 1,259 万尾 (前年比 125%), 222 万尾 (前年比 136%) となりました (図 1A)。地域別では、ロシアが 1 億 7,172 万尾と最も多く、以下、アラ

スカ 1 億 5,782 万尾、日本 4,328 万尾、カナダ 1,484 万尾、アラスカ以外の米国 (ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州) 421 万尾、韓国 15 万尾と続いています (図 1B)。

人工ふ化放流数

2014 年 1-12 月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は 52 億 387 万尾で、前年 48 億 5,786 万尾の 107% でした (図 1C)。

魚種別ではサケが 31 億 6,548 万尾で 6 割以上を占め、これに次ぐカラフトマス 15 億 228 万尾と合わせると全体の 9 割近くを占めます (図 1C)。地域別では日本が 19 億 302 万尾、アラスカ 17 億 4,632 万尾、ロシア 9 億 6,915 万尾、アラスカ以外の米国 3 億 1,726 万尾、カナダ 2 億 3,986 万尾、韓国 2,825 万尾となっています (図 1D)。

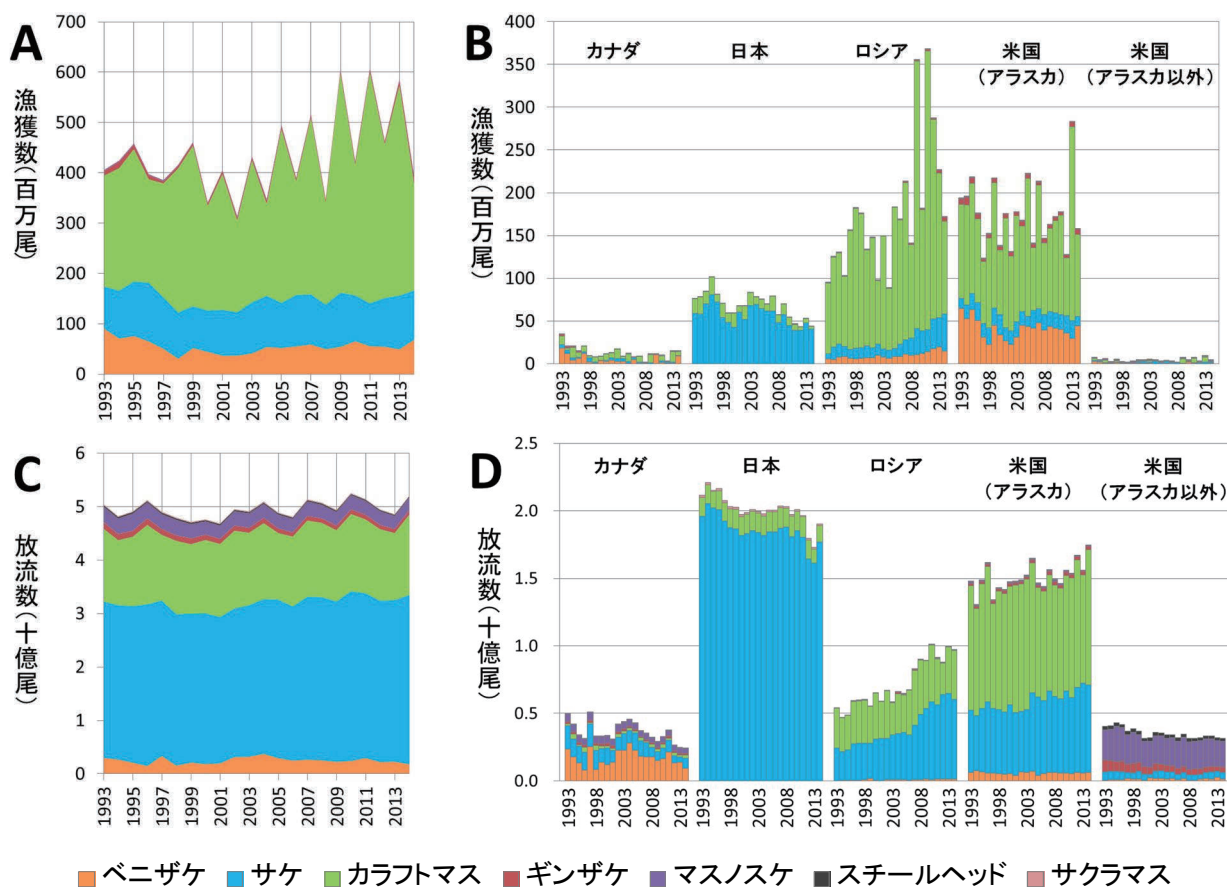


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A)、地域別魚種別の漁獲数 (B)、魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D)。

1993-2013年は「NPAFC Statistical Yearbook」URL: http://www.npafc.org/new/science_statistics.html より引用 (参照 2015-11-11)。なお、2011年の放流数は「NPAFC Statistical Yearbook」に未収録の岩手、宮城県分の放流数を加算してある。2014年はNPAFC年次報告で示された数値を使用。1998年までのロシアにはEEZ (排他的経済水域) で他国が漁獲したものを含む。アラスカ以外の米国はワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともわずかなため図中では省略している。

2015 年度の日本

サケ

2015 年度の来遊数（沿岸漁獲と河川捕獲の合計）は 12 月 31 日現在で 4,402 万尾、前年度同期比 99%となっています。このうち北海道は 3,677 万尾（前年同期比 105%）、本州太平洋側で 598 万尾（前年同期比 71%）、本州日本海側で 127 万尾（前年同期比 127%）と前年同期比は地域によって異なる結果となりました（図 2）。総採卵数は 12 月 31 日現在で 20 億 2,289 万粒、前年同期の 99%となっています。今年度は岩手、宮城県の河川捕獲数が 12 月 31 日現在でそれぞれ前年同期比 74%、69%と少なかったのですが、関係者のご尽力により、採卵数は岩手、宮城県でそれぞれ計画の 90%、97%まで確保されています。放流数は計画（約 17 億 5,000 万尾）を少し下回ると見込まれます。

カラフトマス

主産地の北海道における 2015 年度来遊数は 210 万尾で前年度比 133%でした。カラフトマスは来遊数が隔年で変動する特徴があり、2003 年度以降、奇数年は豊漁年、偶数年は不漁年にあたります。今年度は豊漁年の年回りですが、近年の豊漁年の中では来遊数が最も少なく、平成以降最も少なかった前年の次に少ない来遊数となりました。総採卵数は 1 億 4,500 万粒と計画数の 85%に留まっており、放流数も計画（約 1 億 3,600 万尾）を下回る約 1 億 2,000 万尾ほどになると見込まれます（図 3）。

サクラマス

2015 年度の北海道における河川捕獲数は 6,889 尾で前年度比 121%となりました。今年度は前年に続き、全体としては比較的少ない捕獲数でした。捕獲数の対前年比については地域によって異なり、オホーツク海区では前年比 306%の捕獲数であったものの、他の海区は前年比 40~60%の捕獲数でした。そのため採卵数は 336 万粒（前年比 68%）に留まり、そ上系サクラマスの計画数 657 万粒の 51%となりました。なお、2011-2015 年度の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

ベニザケ

2015 年度の北海道 3 河川（安平川・静内川・釧路川）における河川捕獲数は 71 尾で前年度比 26%となりました。

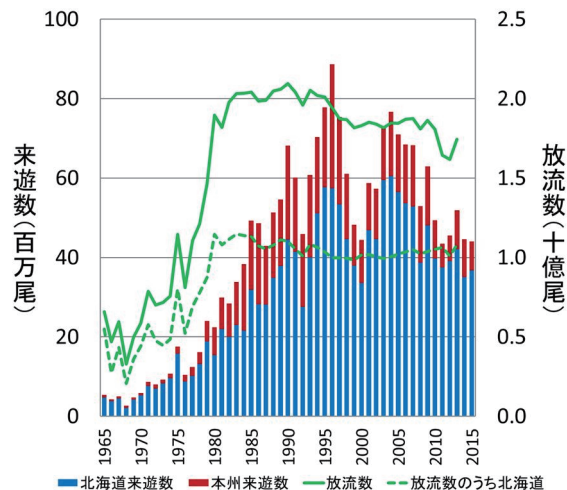


図2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2015 年度来遊数は12月31日現在。

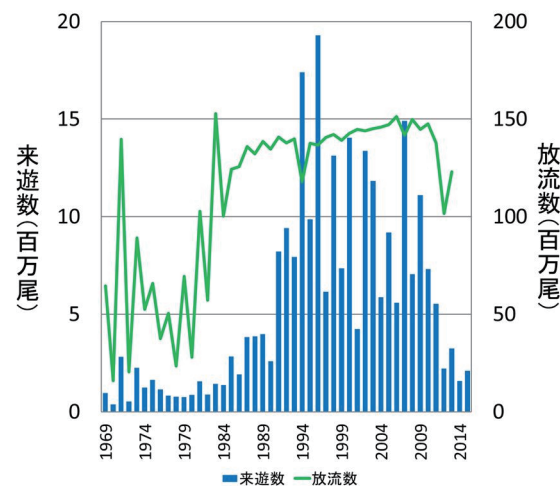


図3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

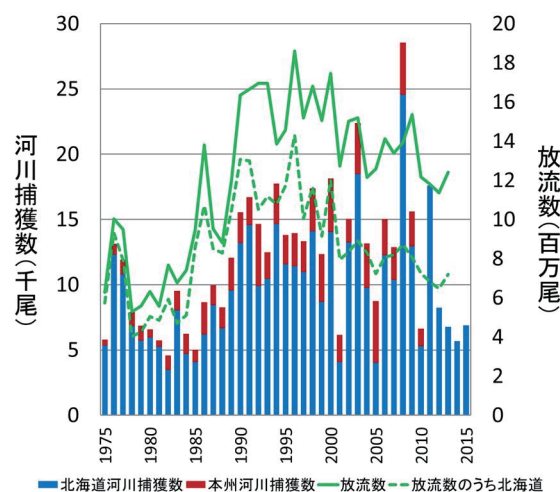


図4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。2011-2015年度の本州河川捕獲数は確認中。